

**東日本大震災を機に考えるべきこと
VCにおけるIP活動のあり方**

2011年3月11日に東北一帯を襲った東日本大震災は、今の世代にとって初めての津波体験だった。私たちは今回の大震災を契機に、かつて同様の津波があった事を知ったが、その間の世代の人々が津波の存在を伝え続けきれなかったことも知った。これとは別に、「原発を推進しても何も問題は起こらない」、と思い込まされていた事にも気づかされた。ほんの65年前に被爆という体験をしていたにも拘らずだ。インタープリターとして、あるいは環境保全に携わる者として何もできていなかったことを反省し今後できることを考えたい。

大震災後、私は三つの大きなうねりを感じている。震災支援のボランティア活動の動きがその一つだ。「新しい組織・グループのダイナミズム」といってもいいだろう。私は『RQ市民災害支援センター』のボランティア活動から、特定のリーダーの指揮下で動くのではなく、構成メンバーの思いとパワーで、現地の状況に合わせて(群れた動物が目的のために見事な動きをみせるかのごとく)柔軟に活動展開することが可能なこと、ダイナミックに動くことが大切であることを学んだ。もう一つは、「新しい社会を創り出すダイナミズム」だ。私たちは上記の原発の問題を契機に、新しいエネルギー供給をはじめとした社会のあり方を目指すいい機会を得ていることを忘れてはいけない。三つ目は「自然学校のダイナミズム」である。自然学校は、自然体験活動の拠点としての機能に端を発し、第2フェーズとして地域活性・地域再生の拠点としての機能を有してきたが、新たに新しい社会(持続可能な社会)づくりの拠点としての機能を持つべきであることがRQ市民災害支援センターによって宣言された。次世代の自然学校の取り組みの始まりだ。

この三つのダイナミズムを心にすえて、ビジターセンターなど自然教育施設における活動やインタープリテーションの新しい展望を持つことが必要だと強く感じる。まずはこれまでの動きをふりかえってみたい。

第1フェーズ インタープリター不在の時代

無人で自然公園の施設として避難や休憩、博物展示、インフォメーションが行われている時代

第2フェーズ 専門のインタープリターが常駐する時代

1981年に東京都高尾ビジターセンターにインタープリターが常駐するようになったのを皮切りに、ビジターセンター、自然観察の森などにインタープリターが常駐するようになった。ただ、自然解説は、自然についての説明が中心。日本の特徴としてインタープリテーション活動は民間組織に委託される形態。

第3フェーズ インタープリテーションの充実期

インタープリテーションの手法として、自然体験を通して気づきや学びが得られるようなプログラムが実施されるようになった。1992年からインタープリターのトレーニングの機会が誕生した。

第4フェーズ インタープリテーションの展開期(自然体験の場・環境教育の場としての機能展開)

学校の週5日制、生活科や総合的な学習の時間、指定管理者制度の導入などによって充実期から展開期に移行してきたが、定着に向かっていくかどうかは疑問。

以上のように、少しずつ発展してきたものの、専門的な仕事として発生して30年がたつ現在も、社会的なポジショニングとして確固たる状況になっていない、という現状認識が必要だ。活動自体も持続可能になるために、次世代型のビジターセンター・インタープリテーション活動をデザインし直す必要があるだろう。2006年度に始まった指定管理者制度が、インタープリテーション活動を実践する側にとって大きくプラスに働かなかった、という状況も大きい。地方自治法の改正によってビジターセンターにおけるインタープリテーション活動が自治体の制約から解放されると期待をしたが、残念ながら全く自由度が増していない。

以上の経過を踏まえて、第5フェーズとしてのあり方としては、地域に不可欠な存在となるべく、地域と強く連携しながら、地域性(風土性・場が持つ力や意味)を前面に打ち出すことではないかと思う。さらに、新しい社会(持続可能な社会)づくりの拠点としての存在感を前面に打ち出すことも必要だろう。そうしなければ、ビジターセンターにおけるインタープリテーションの未来を私は想像することができない。プログラムとしては、伝統的(伝承的)な日本人の知恵(暗黙知)をどうやってインタープリットできるか、ということかもしれない。私たちはインタープリターとして「過去から学び、未来を作り出していく」ことを、地域の方々と一緒になって取り組む必要があるだろう。

<p>発行：東京都立奥多摩湖畔公園 山のふるさと村ビジターセンター 〒198-0225 東京都西多摩郡奥多摩町川野 1740 TEL：0428-86-2551 FAX：0428-86-2316 E-mail：yamafuru@hkr.ne.jp URL：http://www.yamafuru.com 企画・編集：自然教育研究センター 2011年7月発行</p>	<p>< 編集後記 > 真夏日が続く今日この頃。この夏の取り組みとして、ビジターセンター前に打ち水をしています。来館者家族と一緒に、山の水を汲んで来て撒いた所、40℃もあった路面温度は5℃も下がり、気温も2℃下がりました。何より水飛沫が気持ちいいです。(坂田)</p>
---	--